

令和7年度「全国学力・学習状況調査」の結果 —分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

区 名	鶴見
学 校 名	焼野小学校
学校長名	中田 昌彦

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和7年4月17日（木）に、6年生を対象として、「教科（国語・算数・理科）に関する調査」と「児童質問調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査内容

(1) 教科に関する調査

- ・国語
- ・算数
- ・理科

(2) 質問調査

- ・児童に対する調査
- ・学校に対する調査

3 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第6学年の原則として全児童
- ・焼野小学校では、第6学年 54名

学校名 焼野小学校

令和7年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要

算数科の平均正答率（59％）は、全国平均（58％）を上回った。一方、国語科と理科の平均正答率は、全国平均を下回る結果となった。各教科における正答数の人数分布を見ると、平均正答数あたりには分布が少なく、それ以下や低位層に分かれる傾向が見られ、本調査においては、結果が2極化していることが分かった。各設問を見ていると、「知識・技能」より「思考・判断・表現」にかかわる事項において、比較的多く課題が見られた。

分析から見えてきた成果・課題

教科に関する調査より

〔国語〕

漢字を使って書き直すことや、適切な言葉を書き抜く設問は全国平均を超える正答率であった。一方、図表と文章の結びつけて考えることや、文章を読んで発言の目的を見つけることに課題が見られた。本校では情報活用育成に取り組んできたが、教科を超えて意識していく必要がある。

〔算数〕

分数の計算や、基になる量の何倍になるかを見つけること等、全体的に全国平均に近い正答率であった。一方、2つのグラフから増減の違いを理解して記述することや、計算において共通する単位を回答することには、課題が見られた。基礎的な事項は身につけている児童が多いが、自分の考えを文章等で表すことは引き続き取り組んでいく必要がある。

〔理科〕

植物の発芽条件や顕微鏡の扱いについては、全国平均を超える正答率であった。磁力を強めるためにはコイルの巻き数をどうすればよいか、海の氷が溶けることから考えたことを選ぶ、といった自然事象に対する見方や考え方について課題が見られた。実験や観察、映像資料等から自分が考えたことを表現する活動を意識して取り組む必要がある。

質問調査より

基本的な生活習慣（食事・睡眠）は身につけている児童が多い傾向にある。先生が自分たちを認めている意識が高い。困っている友達を助ける、いじめはいけない、困ったら相談できる人がいるといった他者との関わりについての質問項目にも肯定的な回答率が高い。学校生活にもおおむね満足している。学習に関しては、ICT活用がよく行えているという意識が高い一方、算数の学習が苦手だと感じている児童は少し多い傾向にある。普段の学校生活については概ねよい傾向が多くみられる一方、学習に対して苦手だと感じる傾向も見られる。個別支援を充実させることや、今求められている学力に焦点をあてた指導改善を全教職員で共有し、児童の学びを見取りながら進めていきたい。

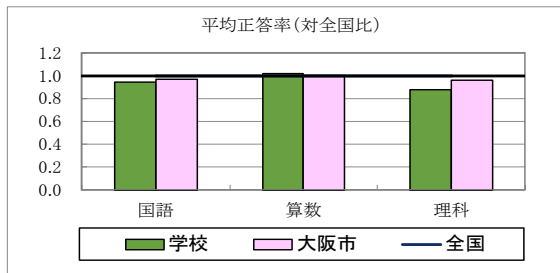
今後の取組(アクションプラン)

研究教科である算数科の基礎基本を身につけるため、「マス計算」を全学年で取り組みを継続して週2回程度実施する。各教科における見方・考え方を養うために、「考えの根拠を明らかにする」「複数の資料からどんなことが分かったか」「自分の考えたことを順序だてて説明すること」に重点を置き、指導改善を図る。また、総合的読解力の育成を目指して計画的に実践を進めるとともに、「町たんけん」「綿の栽培と活用」「難民支援のための衣服リサイクル事業」といった教科横断型の学びを進めている。このような、個に応じた課題解決の学びや、他者との協働を通して「主体的・対話的で深い学び」の充実を目指す。また、質問調査において家庭での学習習慣に課題が見られたので、児童に対して情報モラルに関わる指導を実施した後、学習者用端末の持ち帰り運用を始め、家庭での学習習慣の体制づくりを推進する予定である。

【 全体の概要 】

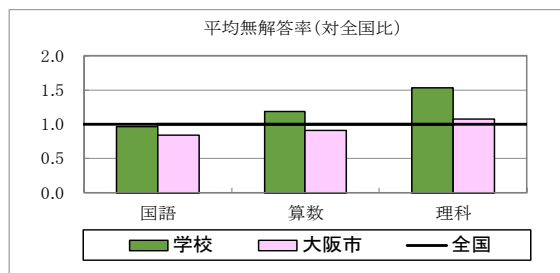
平均正答率 (%)

	国語	算数	理科
学校	63	59	50
大阪市	65	58	55
全国	66.8	58.0	57.1



平均無解答率 (%)

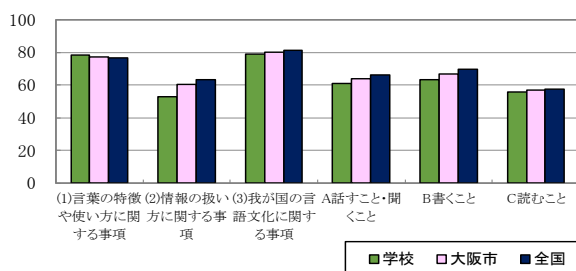
	国語	算数	理科
学校	3.2	4.3	4.3
大阪市	2.8	3.3	3.0
全国	3.3	3.6	2.8



【 国語 】

学習指導要領 の内容	対象 設問数 (問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
(1)言葉の特徴や使い 方に関する事項	2	78.3	77.1	76.9
(2)情報の扱い方に 関する事項	1	52.8	60.4	63.1
(3)我が国の言語文 化に関する事項	1	79.2	79.9	81.2
A 話すこと・聞くこと	3	61.0	64.0	66.3
B 書くこと	3	63.5	66.7	69.5
C 読むこと	4	55.7	56.9	57.5

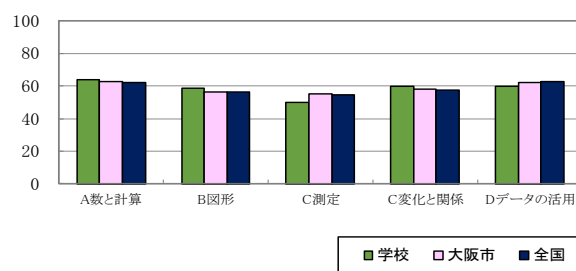
国語 内容別正答率(学校、大阪市、全国)



【 算数 】

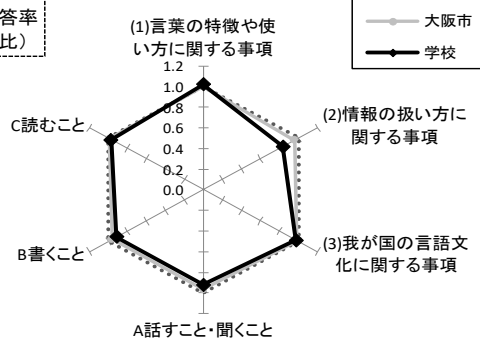
学習指導要領 の領域	対象 設問数 (問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
A 数と計算	8	63.9	62.7	62.3
B 図形	4	58.5	56.4	56.2
C 測定	2	50.0	54.9	54.8
C 変化と関係	3	59.7	58.2	57.5
D データの活用	5	60.0	61.9	62.6

算数 領域別正答率(学校、大阪市、全国)



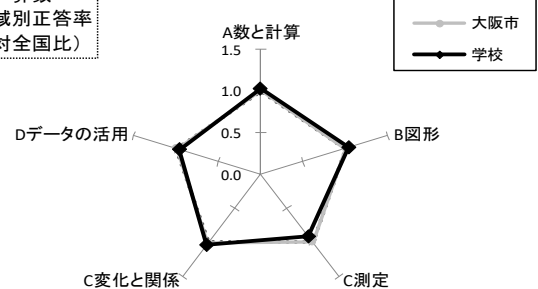
国語

内容別正答率
(対全国比)



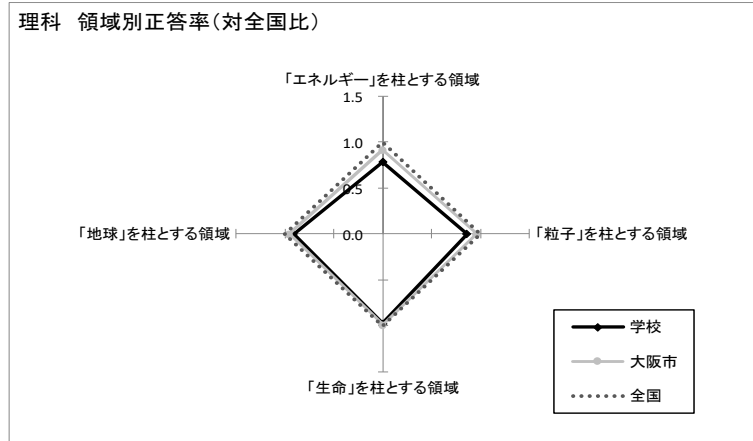
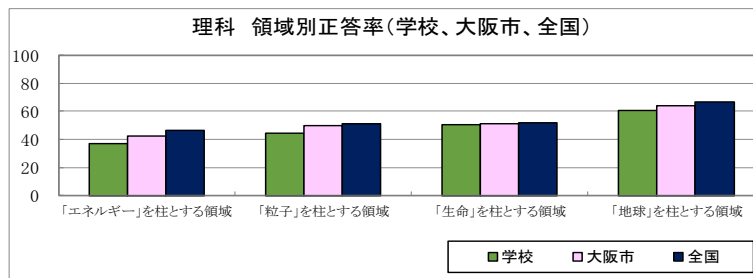
算数

領域別正答率
(対全国比)



【 理科 】

学習指導要領 の区分・領域	対象 設問数 (問)	平均正答率(%)			
		学校	大阪市	全国	
A 区 分	「エネルギー」を 柱とする領域	4	36.8	42.7	46.7
	「粒子」を 柱とする領域	6	44.3	49.5	51.4
B 区 分	「生命」を 柱とする領域	4	50.5	51.4	52.0
	「地球」を 柱とする領域	6	60.7	63.8	66.7



児童質問より

質問番号

質問事項

5

自分には、よいところがあると思いますか

6

先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか

8

人が困っているときは、進んで助けていますか

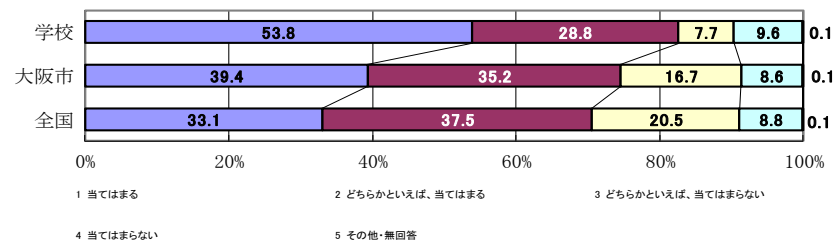
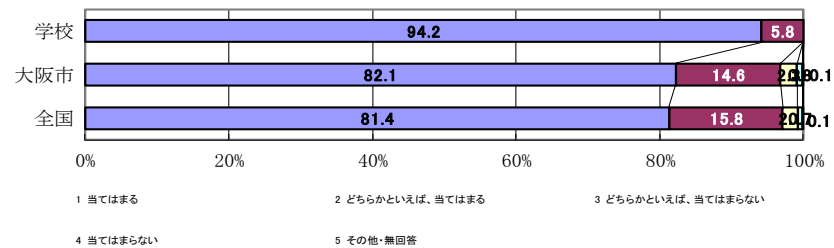
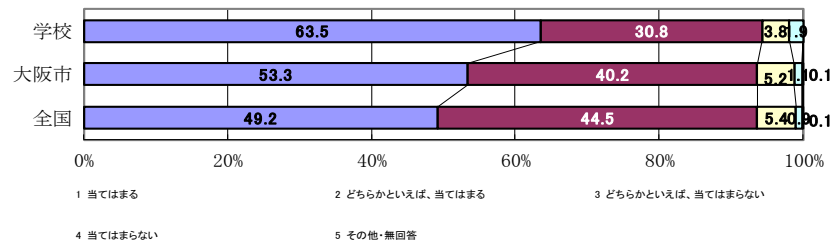
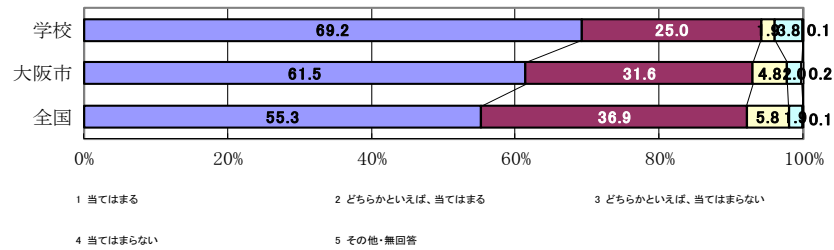
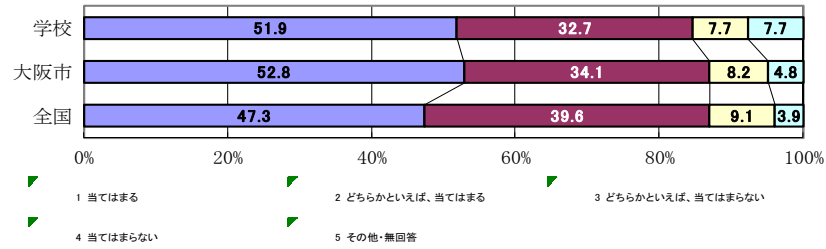
9

いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか

10

困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか

1 2 3 4 5 6 7 8



学校質問より

□1 □2 □3 □4 □5 □6 □7 □8 □9 □10

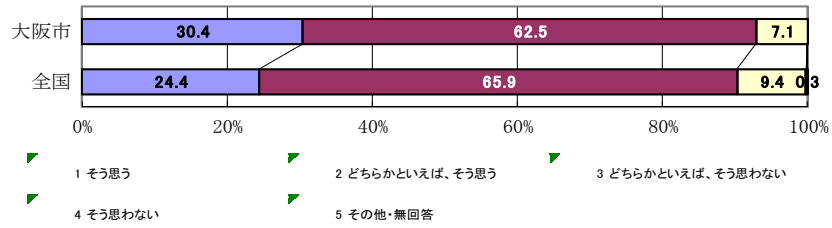
質問番号

質問事項

7

調査対象学年の児童は、熱意をもって勉強していると思いますか

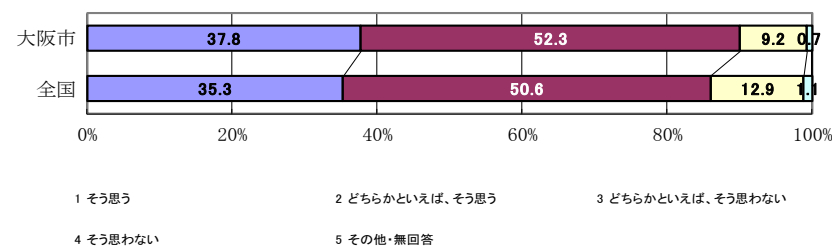
学校 「どちらかといえば、そう思う」を選択



8

調査対象学年の児童は、授業中の私語が少なく、落ち着いていると思いますか

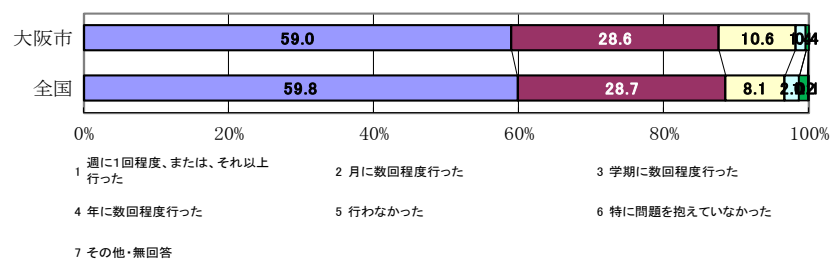
学校 「そう思う」を選択



12

前年度に、教員が学級の問題を抱えている場合、ともに問題解決に当たることを行いましたか

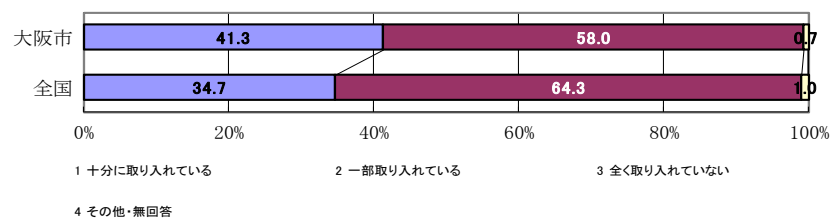
学校 「週に1回程度、または、それ以上行った」を選択



13

ICTを活用した校務の効率化(事務の軽減)の優良事例を十分に取り入れていますか

学校 「十分に取り入れている」を選択



15

児童の姿や地域の現状等に関する調査や各種データなどに基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立していますか

学校 「よくしている」を選択

